

「1級建築士設計製図試験」

課題対策会議開く

総合資格

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、本年度1級建築士設計製図試験の課題が7月22日に発表されたのを受け、即日内部で課題分析を開始。翌日には、全国から担当講師を集め課題対策会議Ⅱ写真Ⅱが開催された。



ことしの課題は「介護老人保健施設」。近年の世情を反映し「高齢者社会」における在り方の提言につながる課題で、当日は、さまざまな角度から分析が行われ、より合格に近い講習を提供するための熱い議論が展開された。

建築関連資格の専門指導校として全国に67拠点を展開。毎年、1級建築士合格者の約半数を輩出している同社では、今回の課題対策会議を経て開発された各種教材を、7月末から開講する設計製図

試験対策講座に投入する。

同社が運営する総合資格学院では、受講生約15人に講師1人が対応、納得できるまで指導を受けられるのが最大の特徴。また、講座終了後も学習できる環境が整っており、自習時も講師の指導が仰げる。

同学院では「建築士法の改正に伴う新試験は、建築士としての資質が問われる試験へと移行しており、建築設計全般に関する基本的な知識・能力が試される」と話す。

設計製図試験は、10月上旬のため、暑い夏の約2カ月間をどう過ごすかが合否を左右するため、受験生にとってはこれから本番。